

筋ジストと闘う研修医 松山・明地さん



明地雄司さん

筋力が徐々に低下し、さまざまな内臓疾患を併発する難病「筋強直性ジストロフィー」の診断を受けたことから医師となり、病気の治療や研究の発展を目指す男性がいる。松山市民病院の研修医明地雄司さん(32) 〓松山市松前町2丁目。「病气への認識を広め、治療薬の開発につなげたい」と今年3月には患者会活動を始めた。手を強く握るとスムーズに広げにくいなどの筋強直や手足などの筋肉が落ちる

筋萎縮が特徴の病気。いくつかの種類がある筋ジストロフィー症の中で、筋強直性は成人では最も多いとされる。呼吸や代謝など多臓器の障害も起こるが、認知度が低く、本人や医師が病気に気付かないまま重篤になったり、十分な治療が受けられなかったりするケースが多いという。

「医師でさえ知らない人

がおり、診断に至らない患者もいる。まずは多くの人に認識を深めてほしい」。理解の輪を広げようと動きだした。(5面に続く)